

# 令和3年度 学校法人大阪YMCA学院(松尾台こども園)施設関係者評価 公表シート

## 1 学校法人大阪YMCA学院の教育目標

- ①キリスト教精神に基づき、一人ひとりの子どもを受け入れ、家庭、地域と共に生きる力を育みます。
- ②全面芝生の園庭や自然豊かな環境の中でのびのびと自由に、様々な活動や遊びを通して、健やかな「からだ」と豊かな「こころ」、考える力を養い、バランスのとれた子どもを育みます。
- ③外国人スタッフとの英語遊びや国際交流プログラムなどの体験を通して、言葉や文化、個性の違いに気付き、豊かな感性を育みます。
- ④子どもが自己、他者、生命の尊さに気づき、平和な社会と地球を創り、共に生きようとする意識を培います。

## 2 本年度に定めた重点的に取り組む評価の具体的な目標

- ・幼保連携型認定こども園として、自園の特色について再確認を行い、保育の充実を図る。
- ・地域に開かれたこども園としての機能を果たすための環境を整える。
- ・幼保合同での避難訓練(火災、地震)や各クラスで様々な状況を想定した避難訓練を実施し、安全管理に努める。

## 3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果
① 教職員の自己評価を実施し、現状の課題改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任、主任保育者 計13名に保育自己評価を実施し、創立の精神と特色教育継承の再確認を行った。基本を踏まえながら、こども園として今後の保育内容、方針について園内研修等で協議を行い、結果、諸行事を見直し、年間カリキュラム及び、月の指導計画を改訂した。</li> <li>・年間のカリキュラム、月案、保育計画等の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画の見直しを実施。教職員間での会議回数を増やして協議し、対応した。園の方針や現状の課題の共有、協議を重ねる中で新年度の指導計画を策定し、実践しつつある。</li> </ul>
② 教育保育内容・環境の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園(0～5歳児)の保育・教育の充実を目指し、幼保間での人事異動、交流や保護者の保育参加を積極的に行い、双方での学びを深めることができた。</li> <li>・保育内容や環境については、令和3年度も引き続きコロナウイルス感染防止対策で換気・手洗い・消毒・検温の徹底をはじめ、行事等の変更を余儀なくされたが、コロナ対策と保育の質の確保の両立に注力した。</li> </ul>
③ 安全管理対策の強化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園では年間2回、保育園では毎月避難訓練を実施し、各クラスで災害の想定を変えて訓練を行った。教職員間、また子どもとの間で防災への意識を高め、避難の確認を行った。</li> <li>・年間2回の大阪YMCA主催の安全教育研修会にも教職員全員が参加・視聴し、防災や安全対策について学んだ。</li> <li>・安全・防犯対策の玄関カードキーが定着してきた。</li> <li>・非常用毛布を購入し、災害時の備えを強化した。</li> </ul>
④ 人材育成を実践する主任、中堅教職員の育成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員に目標管理シート(MBO)を使用し、各自の役割と研鑽すべき点などを管理職と共に考えながら日々の目標を設定し、人材育成の推進を図った。</li> <li>・保育の質向上という課題に対して、年間研修計画を作成し、教職員がオンラインでも積極的に研修に参加できるような環境づくりを行った。</li> </ul>
⑤ 特別支援教育の必要性のある児童に対応する関わり方を学習し、現場に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭、教育委員会、地域支援センター、特別支援校と連携し、観察とコンサルテーションを実施し、気になる園児に対する関わり方や保育環境の設定について研修を行い、園全体で理解と指導方法の統一を図った。</li> <li>・希望する園児の保護者には、各専門家との相談日を設け、特別支援に対する理解と保育における支援方法等の環境整備を行った。</li> <li>・その他、積極的に外部研修に参加し、発達に関する専門知識や特別に支援を要する子どもに対応するための学びの機会を多く設け、共通理解の推進を行った。</li> </ul>

⑥ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園では可能な限り園庭開放を行い、安全に遊べる場所を提供すると共に未就園児保護者のこども園に対する理解を深めてもらう機会とした。</li> <li>・「トライやるウィーク」(中学生職業体験)の積極的な受入れ実施。</li> <li>・小学校との連携では、小学1年生担任や就学指導担当者との協議によって情報の共有を強化した。</li> <li>・秋には地域高等学校の保育体験を受入れ、幼児とのふれあいを通して、命の尊さを感じてもらえる機会を提供した。</li> <li>・地域の未就園児を対象とした2歳児・1.5歳児対象健康づくりクラスを実施した。また週2～4日の午前中、子育てサロンを開設し子育て中の親子の交流の場を設けた。</li> </ul>
----------	--

## 4 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

概ね達成されつつある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育目標を明確にし、年間を通して研修の場を持つことで、自園の取組むべき課題を抽出し、教職員間で協議しながら取り組むことができた。また、大阪YMCAグループの他法人とも連携し、課題解決に向けて柔軟に対応することができている。</li> <li>・今後も取り組みを継続する。</li> </ul>
-------------	--

## 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み状況
① こども園保育カリキュラムの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自園の教育目標、教育方針について、0歳から5歳(6歳)児に対する教育と保育に関するカリキュラム及び月の指導計画改訂の完成に向けて教職員で検討を継続し、並行して実践してゆく。保育園から幼稚園に進級する園児へのスムーズな導入を考慮し、保育内容のすり合わせも担任同士で連携を取り合い行った。</li> <li>・YMCAが推進するグローバル教育への土壌作りを行う。海外のYMCAとの交流やYMCAとの交流や意見交換、英語教師によるプログラムの実施等、継続的な活動になるよう指導計画に取り込む。</li> <li>・保育時間利用の園児が増加、3～5歳児の長時間保育、預かり保育について、幼稚園 通常保育との内容の整合を図り、様々な家庭背景に配慮した指導計画を策定し常に見直しを行いながら内容と環境を整えてゆく。</li> </ul>
② 人材の採用、育成強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新制度移行に伴う保育教諭の採用を強化するため、インターンシップや保育ボランティアの受入れを実施し、認定こども園の役割や当園の教育保育内容を分りやすく学生に伝え、理解と意欲のある人材の確保を図る。</li> <li>・教職員が自ら学びたい研修に参加したり、年間研修計画および外部の人材育成制度を有効に活用することで、主体的に研修に取り組むようにする。</li> <li>・YMCAネットワークを生かしたオンラインによる研修・交流などを行い、教職員のグローバル感覚を養い、子どもたちに伝えられる人材を育成する。</li> <li>・令和3年度もコロナウイルス感染防止のため人事交流の実施はできなかったが大阪YMCAに在籍する留学生向けに食品の寄贈を募る等、グローバルの他に社会の問題にも目を向ける機会を設け育成の一助とした。</li> </ul>
③ 組織運営体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が、組織の中での役割を理解し、後輩や部下育成に積極的に関わることが出来るように、一人ひとりの役割を明確にし、無駄の無い組織運営を目指す。</li> <li>・勤務時間管理を含め、教職員の就業における各種法令の遵守を再確認する。</li> <li>・総合遊具の点検、随時補修。</li> </ul>
④ 施設整備計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減価償却・施設維持引当金の積み増しを継続し、施設整備計画に基づき、空調設備・プール過機の整備等を行う。</li> <li>・安全を最優先し、各所、外部との隣接箇所の補修、改修を順次実施する。</li> </ul>

## 6 施設関係者の評価

こども園教職員自己評価、保護者による評価、こども園自己評価を確認し、概ね項目4のとおり評価としたが、今後は、自己評価や保護者からの評価の結果をより明確に分析し、数回の委員会での協議、確認を行うことが必要である。

## 7 財務状況

独立監査法人の公認会計士監査及び監事による監査により、適正に運営されていると認められている。

## 8 情報の公開

本学院ホームページに基本的な情報を積極的に公開している。アドレス…<https://osaka-ymca.com>

## 2021年度保護者アンケート 結果集計

1～3号(0歳～年長)

	父	母	祖父母	その他	無回答	計
回答者	9	111	0	1	21	142
	12.2%	78.2%	0.0%	0.7%	14.8%	

		とても そう思う	そう思う	普通	そう 思わない	わからない	無回答	計
保育内容 について	1.子ども一人一人を理解し、大切に保育がされている	86	52	3	0	0	1	142
		60.6%	36.6%	2.1%	0.0%	0.0%	0.7%	100%
	2.子ども一人一人の個性や発達に応じて、丁寧に保育がされている	77	55	8	0	1	1	142
		54.2%	38.7%	5.6%	0.0%	0.7%	0.7%	100%
	3.年齢に応じた健康教育(体育・水泳)への取り組みがされている 年少～年長(1・2号)	59	43	3	0	0	1	106
		55.7%	40.6%	2.8%	0.0%	0.0%	0.9%	100%
こども園 運営につ いて	3.年齢に応じた食育(給食等)への取り組みがされている 0～2歳(3号)	25	11	0	0	0	0	36
		69.4%	30.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	4.子どもが喜んでこども園(幼稚園・保育園)に通っている	101	35	4	1	0	1	142
		71.1%	24.6%	2.8%	0.7%	0.0%	0.7%	100%
	1.園でのけがや体調の変化について、園からの連絡・確認が適切にされている	77	52	9	2	1	1	142
		54.2%	36.6%	6.3%	1.4%	0.7%	0.7%	100%
こども園 運営につ いて	2.子どもの気持ちや様子、子育てについて職員と話したり相談できる(機会がある)	66	55	16	2	2	1	142
		46.5%	38.7%	11.3%	1.4%	1.4%	0.7%	100%
	3.園だより、クラスだよりなどの情報提供は、わかりやすい	65	58	12	4	2	1	142
		45.8%	40.8%	8.5%	2.8%	1.4%	0.7%	100%
こども園 運営につ いて	4.園の生活において安全対策がとられている	50	68	18	0	5	1	142
		35.2%	47.9%	12.7%	0.0%	3.5%	0.7%	100%

		とても満足 している	満足	普通	やや不満	不満	無回答	計
総合的な 評価	総合的に評価して満足している	77	58	4	0	0	3	142
		54.2%	40.8%	2.8%	0.0%	0.0%	2.1%	100%